

I C T を効果的に活用した  
授業実践のために  
—子どもたちの学びを広げ・深める  
1人1台端末の活用—



令和2年12月  
三重県教育委員会

# 目次

1	はじめに ～子どもたちの学びを広げ・深める1人1台端末の活用～	1
2	児童生徒の情報活用能力の育成について ～情報活用能力各学年等段階表～	2
3	1人1台端末を活用した授業展開例	4
4	ICT活用イメージ表	5
5	ICTを活用した「授業モデル」について	11
6	参考資料	
	(1) 文部科学省・各都道府県等関係資料HP	26
	(2) 授業等で活用できる無料アプリ一覧	28
	(3) 情報教育研修講座の方向性（県教育委員会研修推進課）	31

\* 5 以降は今後随時更新予定です。

# 1 はじめに

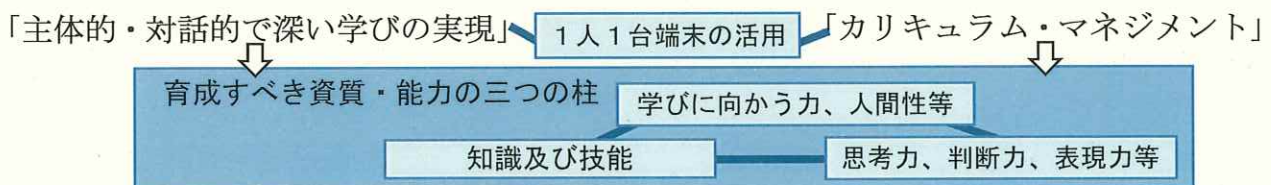
## ～子どもたちの学びを広げ・深める1人1台端末の活用～

これからの予測困難な時代を生きていく子どもたちには、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、豊かな人生を切り拓いていくことが求められます。子どもたちは、社会の変化に対応できる「生きる力」を身に付けていく必要があります。

子どもたち一人ひとりに個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境としてのGIGAスクール構想の加速化を受けて、先に発出した「小中学校等における学校再開後の学習指導に関する留意事項・工夫例」や、「臨時休業期間中に行われたオンライン教育等の実践ガイド集」の内容等も踏まえ、1人1台端末を授業等で活用するにあたって基本となる考え方や授業モデル等をまとめました。

本年度中に公立学校に整備が進められる1人1台端末を、教材・教具や学習ツールの一つとして効果的に活用することにより、子どもたちの学びを広めたり深めたりして、新学習指導要領が求める3つの資質・能力を育む教育活動の展開につなげます。

### ○1人1台端末を活用した子どもたちの学びについて



### ○1人1台端末の活用による教育活動の展開

～全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて～

#### 1人1台端末の活用により可能となること

##### 学びが広がる

- 人とのつながりが広がります  
学級内 学級や学校間 地域や国際社会へ
- 情報収集の範囲が広がります  
課題や目的に応じた調べ学習  
大学や専門家等からの遠隔等を通じた学び
- バーチャルな体験により学びが広がります  
実体験が難しい観察実験、実習、体験等  
シミュレーションアプリや地図アプリ等の活用
- 情報活用能力の育成を図りやすくなります  
プログラミング教育 技術・家庭科（プログラミング等） 高校情報
- 学びの継続に活用できます  
オンライン教育

##### 学びが深まる

- 一人ひとりの学習状況に応じた学びをすすめやすくなります
- 事象の瞬間や変化をとらえることができます  
写真や動画等の映像記録の活用
- 思考を深めやすくなります  
試行錯誤（文章・作図等）のしやすさ  
可視化（データや思考、変化等）のしやすさ
- 表現の幅を広げやすくなります  
プレゼンアプリや多様なメディア等の活用
- 学びを蓄積することができます  
自己の変容（可視化 データ比較等）  
学びのポートフォリオ
- 効果的な家庭学習に活用できます

#### 授業の可能性の広がり

- 教材や資料を視覚的にわかりやすく効果的に示すことができます。
- 多様なメディアや課題、興味等に応じた情報を学習に活用することにより、子どもたちの思考の深まりや表現の広がりを導くことができます。
- 一人ひとりの学習状況に応じた学びやフィードバックが可能になります。
- オンラインにより臨時休業等の非常時においても子どもたちの学習が継続できます。

## 2 児童生徒の情報活用能力の育成について ～情報活用能力各学年等段階表～

学年別情報活用能力段階表例

項目	概要	学習内容	小学校低学年
知識及び技能	観察・実験をしたり図書館・インターネットで情報を収集したり、相手や目的に応じて分かりやすく伝えたりするために必要な基礎的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影・編集</li> <li>・図書資料</li> <li>・インタビュー</li> <li>・アンケート</li> <li>・端末操作（キーボード入力、各種アプリケーションの操作等）</li> <li>・メモ</li> <li>・新聞・リーフレット等の作成</li> <li>・口頭発表</li> </ul>	身近な事象から情報を集めて、相手や目的に応じてまとめ、発信することができる。
			コンピュータの基本的な操作（起動・終了・ファイルの呼び出しや保存）ができる。（クラウド上の操作も含む。）
			基本的な入力（マウス・キーボード等）、出力（プリンター、モニター等）装置を使うことができる。
			写真や音声を記録することができる。 電子黒板等で写真等を映し、簡単に説明することができる。
情報モラル・情報セキュリティ・情報社会などについての知識・理解等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・著作権</li> <li>・肖像権</li> <li>・ルール</li> <li>・マナー</li> <li>・セキュリティ</li> </ul>	他者の作ったものを大切にすることや他者に伝えてはいけない情報があることを理解する。	
		コンピュータやインターネットの基本的なルールやマナーを理解する。	
思考力、判断力、表現力等	収集した情報を整理・分析して、自分の考えを分かりやすくまとめ発信したり、情報および情報技術を適切かつ効果的に活用したりするための思考・判断・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見</li> <li>・課題解決</li> <li>・情報の興味</li> <li>・複数の情報の比較</li> <li>・情報の組合せ</li> <li>・メディアの特性</li> <li>・相手・目的意識</li> </ul>	身近な事象や体験学習を通して、「なぜ」「何」「どんな」等の疑問をもつことができる。
			身近なところから情報を収集して、簡単な絵や図や表やグラフなどを用いて、意見をまとめ、相手を意識して分かりやすく表現することができる。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の解決や表現活動の際には、手順があることに気づく。</li> <li>・身近な生活でコンピュータが活用されていることに気づく。</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等	情報社会や情報手段の特性の理解と、安全かつ適切に情報手段を使うことによって、よりよい情報社会を創ろうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分解して考える</li> <li>・抽象化する</li> <li>・パターン化する（パターンを見つけ出す）</li> <li>・手順化する</li> <li>・試行錯誤する</li> <li>・情報社会を考える</li> </ul>	世の中には、様々な情報を知り、情報に接し、自分の思いや考えを広げようとする。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決等における情報活用</li> <li>・情報社会への参画</li> </ul>
			コンピュータ等を利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする。
	多角的に情報を検討し、自分たちの学習を振り返って省察し、計画を立てたり、改善したりしようとする態度	探究計画と省察	学習内容と方法を振り返り、できるようになったことに気づく。

（文部科学省「教育の情報化に関する手引―追補版―（令和2年6月）」、熊本市版「ICT教育モデルカリキュラム」2020年度小学校版 Ver. 2.2、  
「平成29年度つくば市ICT教育推進プログラム第2版」を参考に作成）

小学校中学年	小学校高学年	中学校
学校内外の事象や図書資料・インターネット等から情報を集めて自分なりに分析し、相手や目的に応じてICT等を活用してまとめ、発信することができる。	・学校内外の事象や図書資料・インターネット等から情報を複数集めて吟味し、相手や目的に応じて、プレゼンテーションソフトを使用し、効果的に発信することができる。 (・電子的な情報の送受信を行うことができる。)	・学校内外の事象や図書資料・インターネット等から情報を複数集めて吟味し、相手や目的に応じて、プレゼンテーションソフトを使用し、複数資料を明らかにしながら効果的に発信することができる。 (・電子ファイルを圧縮したり、パスワードによる暗号化等をしりして運用できる。)
・協働学習支援ツールを使い、指導者からのファイルを受信したり、回答を提出したりすることができる。 ・デジタルノートアプリケーション(レポート作成支援ソフト)を活用し、調査したことや意見等をまとめることができる。 ・電子ファイルの検索や呼び出し、保存をすることができる。(上記3つの事項について、クラウド上の操作も含む。)	・目的に応じて適切なアプリケーションを選択し、操作することができる。 ・デジタルノートアプリケーション(レポート作成支援ソフト)を活用し、調査したことや意見等をまとめることができる。 ・種類や内容に応じて適切な場所に電子ファイルを整理・保存することができる。(上記3つの事項について、クラウド上の操作も含む。)	・クラウドを用いて協働作業を行うことができる。(以下の2つの事項について、クラウド上の操作も含む。) ・デジタルノートアプリケーション(レポート作成支援ソフト)を活用し、調査したことや意見等をまとめることができる。 ・データの保存形式を変更し、フォルダ構成を考えた様々な保存先に電子ファイルを整理・保存することができる。
・キーボードの文字入力をローマ字入力を使って行うことができる。 ・マウス等を使って図形を作成することができる。	・キーボード等による文字の入力を正確に行うことができる。 ・様々なデータをコンピュータを使ってグラフに表すことができる。	・キーボード等による文字の入力を十分な速さで正確に行うことができる。 ・音声や動画などのファイルを取り込んで目的に応じて加工したり、表やグラフを組み合わせたレポート作成を行うことができる。
写真や音声や動画を記録することができる。		
電子黒板等で写真等を映し、説明することができる。	電子黒板等でプレゼンテーションソフトを使用し、説明することができる。	
情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他者の情報の大切さを理解する。	情報通信ネットワーク上のルールやマナー及び悪用に関する危険性を理解する。	情報通信ネットワーク上のルールやマナー及び著作権や知的財産権を尊重することを理解する。
生活の中での必要となる情報セキュリティを理解する。	発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する。	情報社会における自分の責任や義務、情報セキュリティの確保のための対策・対応について理解する。
	情報社会での情報技術の働きや情報化に伴う産業や国民生活の変化を理解する。	情報に関する技術が多くの産業を支えるとともに、社会生活や家庭生活を変化させてきたことを理解する。
身近な事象や体験学習、メディア等を通して、疑問を見つけ、発信することができる。	学校内外の事象や体験学習、メディア等を通して、疑問を見つけ、他者と共有し、課題を焦点化することができる。	
調査や資料等から情報を収集し、情報同士のつながりを見つけたり、表やグラフを用いて整理し、相手に合わせて適切に表現することができる。	課題を発見し、その解決のために、調査や実験・観察、資料等から情報を収集したり、情報同士のつながりを見つけたり、表やグラフを用いて整理したりして、問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる。	疑問を整理する中で課題を設定し、その解決のために、情報メディア、調査や実験等を組合せながら情報を収集したり、表やグラフを用いて整理する中で、傾向や変化をとらえたりして、問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる。
問題解決や表現活動の際に、コンピュータを活用し、プログラムの作成ができる。	問題解決や表現活動の際に、順次、分岐、反復を含んだプログラムを作成することを通して、コンピュータとプログラムの関係を体験的に理解することができる。	技術科での「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決」を踏まえ、問題解決や表現活動の際に、論理的な手続きやデータを様々な工夫できることを体験を通して理解することができる。
必要に応じて情報収集や整理を行い、集めた必要な情報から課題についての解決策を考えようとする	課題解決のために関係する情報を収集し、考察や意見交換を行い、考えをまとめようとする。	・情報や情報技術を多様な観点から考えることによって、よりよい生活や持続可能な社会の構築に生かそうとする。
・情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする。 ・情報の発信や情報をやり取りする場合にも、ルールやマナーはあることを踏まえ行動しようとする。	・情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする。 ・通信ネットワーク上のルールやマナーを踏まえ、行動しようとする。	・情報機器の使用による健康とのかかわりについて考え、情報機器の利用時間や頻度を自己管理しようとする。 ・通信ネットワーク利用上の基本的なルールを守り、著作権や知的財産権を尊重し、行動しようとする。
自らの情報活用を振り返り、どのように改善していけばよいのか考えることができる。	自らの情報活用を振り返り、改善点を分析して考えることができる。	自らの情報活用を振り返り、改善点を分析して考えることができる。

は、学年毎でも同様をめざす情報活用能力。  
知識及び技能の小学校高学年及び中学校の(・電子的情報)。(・電子ファイルを)、  
市町教育委員会の実情によって異なるため、( ) 書きにしてある。

### 3 1人1台端末を活用した授業展開例

導入、展開、まとめのいずれの場面においても効果的な活用が期待できます。

	学習活動	学習内容（活用の具体例）	ICTを利用した指導上の留意点
導入	前時の振り返り めあての提示 教材の共有	○前時の板書や活動の様子を写真等で大型提示装置に映す。 ○めあてを大型提示装置や黒板等に投影する。 ○黒板に教科書の図や文を投影する。 ○あらかじめカメラで撮影しておいた具体物等を大型提示装置に映す。 ○デジタル教材（NHK for School 等）を導入として提示する。	
展開	教材の共有 教材の作成や提示 個に応じた活動 思考の共有や表現 発表 即時評価	○教科書等の二次元コードを読み込み、内容を大型提示装置に映したり、子どもが各自で読み込んだりする。 ○子どものノートを教師用端末で写真に撮り、大型提示装置に映す。 ○実技指導の説明動画を作成して授業で見せる。 ○子どもたちと共有したい資料を各端末に配信する。 ○子どもたちが端末でのインターネットによる調べ学習をする。 ○一人ひとりの学習状況に応じたアプリケーション等を活用する。 ○写真や動画等を共有し相互に書き込みながらペア学習やグループ学習をする。 ○クラウド上で回収した意見を集約して提示し、比較するなど授業展開に活用する。 ○レスポンスアナライザ（集団反応分析装置）を使い子どもたちの意見の分布を見たり、子どもたちの理解に応じて授業の進め方を変えたりする。 ○クラウド上の共同編集の機能を使って、グループ等で資料や作品の協働制作をする。 ○子どもが、図や写真などに書き込みをしたものを大型提示装置に映して発表する。 ○単元のまとめとして、学習したことを写真・動画・Web ページ等複数のメディアを組み合わせたものを使って発表する。 ○発表した子どもに対して聞き手がクラウド上から意見を出し、フィードバックする。 ○小テストをクラウド上で実施し自動採点する。	本時の学習について子どもたちと即時共有する。 興味関心を高めることができる。説明するよりわかりやすくなる。 一人ひとりにしっかり注目させることができる。拡大して細部まで確認できる。 検索の方法や調べる内容等を予め子どもたちに指導しておく必要がある。 学習課題によっては、2人1台、4人1台のほうが効果的なこともある。 複数個の意見の分布を子どもたちや教員が簡単に把握できる。ある時点での理解度の把握にもなる。
終末	活動の振り返り	○写真や動画等を振り返りに活用する。 ○学習記録を蓄積・整理し、子どもの思考の整理や学びの振り返り等に活用する。	

○1時限の中で、1人1台端末を使うこと自体が目的とならないようにしましょう。  
○その時間の課題に迫るために、ICTを使うと効果が上がる場面があるのを考えて使用しましょう。

## 4 ICT活用イメージ表

実際の授業等における場面を想定し、具体的な活用例を、「ICT活用イメージ表」として学習形態別および教科等別の2種類にまとめました。

こちらは、ICTの特性の一つである双方向性に着目し、

- 1 端末の基本的機能を活用し、教員から子どもへ情報の提示ができる
- 2 対面授業・遠隔授業等で1人1台端末を活用し、教員と子どもの双方向のやりとりができる
- 3 対面授業・遠隔授業等で1人1台端末を活用し、教員と子ども、子ども同士、校外の関係機関等との双方向のやりとりができる

の3つの段階に整理しています。これらは実践の難易度を示すものではなく、実際の授業においては、子どもや教員のニーズに応じて、表のどの項目からでも取り組むことができます。

### (1) ICT活用イメージ表（学習形態別）（6ページ）

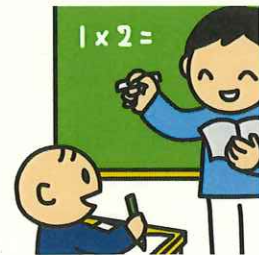
一斉学習、個別学習、協働学習の各学習形態における活用例を、各段階別に一覧にまとめています。

### (2) ICT活用イメージ表（教科別事例）（7～10ページ）

各教科における活用事例を、各学習形態、各段階別に整理しました。

いずれも、特定の校種や学年に絞ったものではなく、広く参考にさせていただくことを想定しています。

令和2年度末までに、1の、「対面授業において端末の基本的機能を活用し、教員から子どもへ情報の提示ができる」が、各学校で実践されることを目指しています。



(1) ICT活用イメージ表（学習形態別）

	1 端末の基本的機能の活用	2 双方向機能の基本的な活用	3 双方向機能の応用的な活用
教員	対面授業等で、端末の基本的機能を活用し、教員から子どもへ情報の提示ができる。	対面授業・遠隔授業等で、1人1台端末を活用し、教員と子どもとの双方向のやりとりができる。	対面授業・遠隔授業等で、1人1台端末を活用し、教員と子ども、子ども同士、校外の関係機関等との双方向のやりとりができる。
一斉	○端末と大型提示装置（プロジェクター・大型モニター等）をつないで実物、図や写真、動画等を提示できる。 ○クラウド上に写真や動画等を保存し、そのデータを再生することができる。	○図や写真等を書き込み等の加工をして提示できる。 ○デジタル教材（NHK for School 等）を提示できる。 ○学習用アプリのアニメーション等の機能を活用できる。 ○クラウド上で資料の一斉配付及び回収ができる。 ○教員の画面を子どもたちの端末に共有して、資料等を提示できる。	○クラウド上で回収した意見を集約して提示できる。 ○子どもたちの提出課題をもとに個別にフィードバックを行うことができる。 ○クラウド上で小テスト等を実施し自動採点を活用できる。 ○アンケート機能を、子どもたちの理解を確認するためのなどに活用できる。
個別	○子どもたちに写真や動画等を撮影、保存、再生させることができる。 ○子どもたちに教科書等のQRコードを読み込ませ、資料の閲覧をさせることができる。 ○子どもたちに学習に必要なアプリを立ち上げ使用させることができる。	○子どもたちに図や写真等を書き込み等の加工をさせることができる。 ○子どもたちに作成したファイル等のクラウド上への保存や活用をさせることができる。 ○一人ひとりの学習状況に応じたアプリ等を活用できる。 ○子どもたちに端末を利用してインターネットによる調べ学習をさせることができる。	○子どもたちに、図や写真、動画、Web ページの情報等、多様な媒体を効果的に組み合わせた資料や作品等を作成させることができる。 ○子どもたちが思考の整理や学びの振り返り等に活用するために、学習記録を蓄積・整理することができる。 ○学習記録を蓄積・整理し指導や評価等に活用することができる。
協働	○子どもたちに図や写真、動画等を活用し、意見交流させることができる。 ○Web 会議システムの基本的な操作がわかる。	○子どもたちに図や写真、動画、学習シート等を共有し相互に書き込みながら意見交流させることができる。 ○Web 会議システムを活用して遠隔授業を行うことができる。	○子どもたちに、共同編集の機能を活用してグループ等で資料や作品の協働制作をさせることができる。 ○授業支援システムやアプリ等を活用して、子どもたちと教員及び子ども同士同士のやり取りをさせることができる。 ○Web 会議システムを活用して他の学級や学校との交流等を遠隔で行うことができる。
情報モジュール等	○音漏れ、写真撮影のマナー、など端末の利用についての基本的なマナーの指導 ○インターネット等の情報の真偽の見極めや、適切な情報を選択することなどの指導 ○発信の際の相手への配慮や、情報に関する自分や他者の権利を尊重することなどについての指導 「情報モジュールカリキュラム」「情報モジュールに関する指導の充実」に資する指導（文科省）等参照		

※活用の前提として習得が必要なこと

\* 端末の基本操作（カメラ・動画・QRコードの読み込み・大型提示装置への投影等）

\* 端末からネットワークに接続する方法やクラウドへのログイン

\* Web 会議システムの基本的な機能进行操作すること



(2) ICT活用イメージ表（教科別事例）

	1 端末の基本的機能の活用	2 双方向機能の基本的な活用	3 双方向機能の応用的な活用
国語	対面授業等で、端末の基本的な機能を活用し、教員から子どもへの情報の提示ができる。	対面授業・遠隔授業等で、1人1台端末を活用し、教員と子どもとの双方向のやりとりができる。	対面授業・遠隔授業等で、1人1台端末を活用し、教員と子ども、子ども同士、校外の関係機関等との双方向のやりとりができる。
	一斉 個別 協働	○子どもたちが作成した作品を大型提示装置に表示し発表させる。 ○子どもたちに文書作成アプリを使って作文を書かせたり校閲させたりする。 ○文書作成アプリで作成した作品を共有し相互に書き込み意見交流させる。	○個人やグループの作品（作文・壁新聞等）に教師用端末から直接フィードバックする。 ○子どもたちに多様な媒体の情報等を効果的に組み合わせて資料や作品等を作成させる。
	一斉 個別 協働	○子どもたちが発表を録画し、相互に見合っ て意見交流させる。 ○教師用端末と大型提示装置をつないで、動画資料を提示する。（表、グラフや地図等） ○子どもたちに写真や動画機能を活用し情報を収集させ記録させる。 ○子どもたちが収集した情報を相互に見合っ て意見交流させる。	○共同編集の機能を使って資料や作品等を作成させる。 ○個人やグループのまとめ等をクラウド上で回収し、直接フィードバックを行う。 ○子どもたちに多様な媒体の情報等を効果的に組み合わせてまとめさせ、必要に応じて全体共有する。
社会	一斉 個別 協働	○子どもたちが収集した情報を共有し相互に書き込み意見交流させる。 ○図形の辺の長さや角の大きさを自由に変えて大型提示装置に映す。 ○子どもたちの考えを大型提示装置に映す。 ○子どもたち1人ひとりの学びに応じた学習用アプリを活用させる。	○共同編集の機能を使ってプレゼン資料等を作成させる。 ○Web会議システムを活用して、地域の人等と講師とする出前授業を遠隔で実施する。 ○クラウド上で回収した考えや解き方を大型提示装置に映し、共有する。 ○学習用アプリ等を使い自分の考えを整理し学習内容を振り返らせる。
	一斉 個別 協働	○子どもたちが記録した考えや解き方を相互に見合っ て意見交流させる。	○共同編集の機能を使って、友だちの考えや解き方を相互に取り込み話し合いやまとめをさせる。
	一斉 個別 協働	○教師用端末と大型提示装置をつないで、動画資料を提示する。（グラフの連続性、回転体等） ○子どもたちに教科書のQRコードで課題や関連資料を閲覧させる。 ○子どもたちに自分の考えや解き方を端末に記録させる。 ○子どもたちが記録した考えや解き方を相互に見合っ て意見交流させる。	○学習用アプリ等を使い自分の考えを整理し学習内容を振り返らせる。
算数 数学	一斉 個別 協働	○子どもたちが収集した情報を相互に見合っ て意見交流させる。	○共同編集の機能を使ってプレゼン資料等を作成させる。 ○Web会議システムを活用して、地域の人等と講師とする出前授業を遠隔で実施する。 ○クラウド上で回収した考えや解き方を大型提示装置に映し、共有する。 ○学習用アプリ等を使い自分の考えを整理し学習内容を振り返らせる。
	一斉 個別 協働	○子どもたちが記録した考えや解き方を相互に見合っ て意見交流させる。	○共同編集の機能を使って、友だちの考えや解き方を相互に取り込み話し合いやまとめをさせる。
	一斉 個別 協働	○教師用端末と大型提示装置をつないで、動画資料を提示する。（グラフの連続性、回転体等） ○子どもたちに教科書のQRコードで課題や関連資料を閲覧させる。 ○子どもたちに自分の考えや解き方を端末に記録させる。 ○子どもたちが記録した考えや解き方を相互に見合っ て意見交流させる。	○学習用アプリ等を使い自分の考えを整理し学習内容を振り返らせる。

理科	一斉	○教師用端末と大型提示装置をつないで、資料を提示する。(自然の事象・観察・実験の手順等)	○子どもたちが収集した情報や気づいたことの記録を大型提示装置に映す。	○子どもたちが端末で作成させた観察・実験レポートや学習シートをクラウド上で回収する。
	個別	○子どもたちに観察・実験の様子を撮影、保存させる。 ○子どもたちに収集した情報や気づいたこと等を端末に記録させる。	○子どもたちの理解を深めるためシミュレーションアプリを活用させる。 ○アプリ等を活用して、収集したデータのグラフ化や分析をさせる。	○提出物等に対して個別にフィードバックをすることともに、必要に応じて全体共有する。
	協働	○子どもたちが記録した観察・実験の様子をもとに、考察をさせる。 ○子どもたちが収集した情報や気づいたこと等の記録を相互に見合っって意見交流させる。	○子どもたちに学習シート等を共有し個々に収集した情報や気づいたこと等について相互に書き込み意見交流させる。 ○子どもたちが観察・実験で得たデータを校内で共有させる。	○子どもたちに共同編集の機能を使って、友だちが収集した情報や気づいたこと等を相互に取り込み話し合いやまとめをさせる。 ○子どもたちが観察・実験で得たデータを校外の機関等と共有させる。
	一斉	○鑑賞において、関係する画像等の資料を示しながら、曲を聴かせる。	○発声の仕方や楽器の演奏等の手本を動画で確認させる。 ○PCで音を聴いて、再生された音楽を手本にして手でリズム練習させる。	○プロの音楽家の演奏や、他の学級や学校の子どもたちの演奏を、Web 会議システムを使って遠隔で鑑賞させる。
	個別	○鑑賞の学習で、個々に自分が気になったところを何度も繰り返し聞き、より深く音楽のよさを感じさせる。	○歌や演奏を録音させ、一人一台端末を使って提出させる。	○アプリを使って音楽を作成・提出をさせ、音楽表現のアドバイスなどのフィードバックをする。 ○ワークシートや実際の演奏などを記録しデータ化し、音や動画をとり込んだ学習のポートフォリオとして活用させる。
	協働	○合唱練習において同じパート同士で集まり、合唱を録音し、自分たちの合唱について良かったところと課題を見つけさせる。	○お手本の歌い方を聞き、自分たちの歌い方を音声と画面で比較させ、音楽表現の工夫に活かすよう指導する。 ○ペアやグループで録音した歌や演奏を、他のペアやグループと聴き合い、音楽表現の多様性に触れさせる。	○同じ曲をそれぞれの学校で合唱し、その様子を Web 会議システムを使い、他校の児童生徒と交流し互いにアドバイスさせる。 ○同じ曲を異なる言語で合唱し、Web 会議システムを使い、海外の児童生徒等と交流する。
音楽				

美術	一斉	○コンピュータに保存されている画像を用いて、同じ作家の作品を複数枚同時に表示したり、拡大したりして鑑賞させる。	○制作の過程や作品を大型提示装置に表示し、共有する。 ○オンライン美術館を鑑賞に活用する。	○生徒が感じたことや考えたことを投票機能等を活用して共有させる。 ○Web会議システムを使い、遠隔で美術館、博物館等の作品を鑑賞させる。
	個別	○自分の作品を写真やビデオで記録し、保存させる。 ○個々に自分が気になったところを何度も繰り返し鑑賞し、見方や感じ方を深める。	○作品の写真とレポートを、一人一台端末を使って提出させる。	○振り返りや制作過程の記録をデータ化し、提出させ、個のつまずきを把握し、それに応じた指導・支援をおこなう。
	協働	○造形遊びの活動において、活動に最適な場所を探し、候補の場所をタブレット等で撮影し、グループで相談させる。 ○造形遊びの様子を写真やビデオにとり、グループで振り返らせる。	○各人が制作しようとする作品のアイデアを撮影し、グループで共有することで、新たな発想や構想のきっかけとする。	○共同編集の機能を活用して、共同作品の制作に取り組みさせる。
技術 家庭	一斉	○調理実習において、食材の切り方をアプリやスローで見せる。(家庭)	○クラス全体の理解度を大型提示装置に表示し、共有する。(家庭)	○実習の動画をクラウド上で保存し、大型提示装置に表示し、共有する。(技術、家庭)
	個別	○被服実習の制作過程がタブレットに録画されたものを見ながら作業させる。(家庭)	○家で作った料理の写真とレポートを、一人一台端末を使って提出させる。(家庭)	○デジタル栽培記録簿を利用し、栽培作業の記録を提出させ、取組みの効果を振り返らせ、必要に応じて全体共有する。(技術)
	協働	○3DCADで製作した作品について共有し、部品の形状や製作品の構造が最適となるようグループで相談させる。(技術)	○一人ひとりのアイデアをアプリ等を活用して共有しながら、グループで製品開発に取り組みさせる。(技術)	○Web会議システムを使い、地域の事業者等から技術で学んだ内容が実際にどう生かされているかを学ぶ機会をつくる。(技術)
体育	一斉	○心肺蘇生法の手順や正しい運動の見本等を大型提示装置を用いて提示できる。	○子どもたちが記録した動きやゲームの様子等を大型提示装置に映す。	○子どもたちが記録した運動の様子やゲームの様子をクラウド上で回収し、保存できる。
	個別	○子どもたちが記録した運動の様子をもとに、自らのできている点や修正点を確認できる。	○子どもたちが記録した運動の様子を比較することにより、自己変容を確認することができる。 ○動作解析アプリを活用して自らの運動の様子を分析できる。	○多様な媒体から見本となる動きを検索し、自分の動きと比較することでできている点や修正点を確認できる。 ○過去の自分の記録や全国の記録を検索し、比較することができる。
	協働	○子どもたちが運動の様子を記録し合うとともに、できている点や修正点を互いに確認できる。 ○子どもたちがゲームの映像を確認しながら、次のゲームに向けて作戦を考える等交流させる。	○他のチームの動きと比較し、次のゲームに向けて作戦を考える等交流させる。 ○校内の危険個所を撮影し、友だちと撮影したものを比較させたり、それらの対策を考えさせる。	○多様な媒体から検索したゲーム映像を参考に、次のゲームに向けて作戦を考える等交流させる。 ○Web会議システムを使って、外部専門家(学生選手や地域の指導者等含む)による直接の指導や助言の機会をつくる。

英語	一斉	○教師用端末と大型提示装置をつないで、教科書本文や補助教材等の提示、書込みをする。	○1人1台端末を使い、クラス全体に課題を出し、大型提示装置で課題の取り組み状況を共有する。	○1人1台端末を使い、パフォーマンステスト等を実施し、教師用端末から個々にフィードバックをすると共に、共通に見られた主な誤りを全体で共有する。
	個別	○子どもたちにデジタル教科書のQRコード等から単語や会話の音声を確認・練習させる。	○課題(スピーキング・ライティング)をオンラインや電子メールで送付し、提出させる。 ○インターネットを使い、授業に関連した外国の文化等を調べさせる。	○学習状況に応じた課題を送付し、個に応じたフィードバックをする。経年変化等を見る。 ○動画作成ソフト等を使い、発表資料を作成させる。
	協働	○子どもたちに自分や友だちの発表、やり取りを録画し相互に発音等を確認させる。	○ペアやグループで課題に対する筆記や発話を共有してタブレット端末に書き込み、意見交流させる。	○共同編集の機能を使い、プレゼン資料等を作成させる。 ○Web会議システムを使い、海外・遠隔地の児童生徒等とプレゼンテーションや即興でのやり取りをさせる。
道徳	一斉	○大型提示装置を用いて教材の内容理解を助ける資料や場面絵等を提示する。	○子どもたちの意見を全体共有し、多様な考え方、感じ方を提示することができる。	○子どもたちの端末に入力されたそれぞれの考えを把握・整理し、必要に応じて全体に共有する。
	個別	○子どもたちが発問に対する自分の考え方・感じ方を端末に書くことができる。	○アンケート機能を活用して、人間理解や価値理解に対するクラスの傾向を共有する。	○毎時間ごとの授業記録を保存し、子どもの学びを見取り評価に活かす。 ○子どもたちが学びを振り返り、授業記録から自らの成長の様子を実感できる。
	協働	○子どもたちが発問に対する自分の考えを相互に見合い、質問し合うなどして交流させる。	○ワークシート等を共有して、個々が気づいたこと等について相互に書き込み、交流させる。	○Web会議システムを使い、他校の児童生徒等と合同で授業を行い、より多様な考えに触れさせる。